



# 保育サポーターバンク通信

2023年(令和5年)10月発行 一般社団法人山口県医師会 〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 TEL090-9502-3715 FAX083-922-2527



## 子育てしながら、自分育てをする医師を支え続けたい

山口県医師会男女共同参画部会長 黒川 典枝

平成21年に活動を開始した保育サポーターバンクも、運営15年目となりました。こうして長きにわたり継続できましたのも、保育サポーターバンクに関わっていただいたすべての皆様のご尽力・ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。開設から令和5年5月までに成立したサポート件数は140件、利用した医師の実数は87名です。現在利用中の医師数は24名、活動中のサポーター数は26名です。保育サポーター制度は、山口県で働いている医師であれば、

どなたでもご利用いただけますので、利用者は女性医師に限りません。ただ、大多数は女性医師からのご依頼です。現在、山口県内の女性医師数は約650名ですので、女性医師の10%以上にはご利用いただいていると考えています。

子育てと仕事のバランスのとり方は、ひとそれぞれに違います。必要とされるサポートもそれぞれに異なります。そのため、まずは保育相談員が医師の要望をしっかりと聞き、さらに医師・保育サポーター

子育てと仕事のバランスのとり方は、ひとそれぞれに違います。必要とされるサポートもそれぞれに異なります。そのため、まずは保育相談員が医師の要望をしっかりと聞き、さらに医師・保育サポーター

ター・保育相談員の三者面談でその要望に対応できるかを検討していきます。できるだけニーズにあった保育サポートができるように、柔軟な体制で運営していきたいと思っておりますので、気軽に声をかけてください。今、自分が歩いてきた道を振り返ってみると、子育てしながら、医師としても、人間としても、自分育てをしていたように感じます。多くの方々に手助けしてもらいながら無我夢中で過ごした子育て時代でした。保育サポーターバンクが、「子育てしながら、自分育てをする医師」をこれからも支援していけますように尽力してまいります。



## 保育サポーターバンクの更なるご活躍を期待して

山口県健康福祉部長 國吉 宏和

平素から、本県の健康福祉行政の推進に、格別の御理解と御協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

このため、県では、女性医師を対象とした様々な支援を行う中でも、仕事と子育ての両立支援には特に力を注いでおり、山口県医師会の御協力のもと、専任の保育相談員を配置し、様々な御相談にお応えする窓口を設置しているところです。

近年、医学部入学者の女性割合の増加を背景に、全国的に医師総数に占める女性医師の割合が増加しており、本県においてもその傾向は強く、特に35歳未満の女性医師割合は3割を超えています。今後ますます増える見込みであることから、女性医師が妊娠・出産・子育ての期間においても、安心して勤務できる環境の整備は極めて重要

この相談窓口と保育サポーターバンクとの連携により、様々なニーズに対応したきめ細やかな支援を行っていただくことで、実際に利用された方々からご好評をいただ

いており、今後とも、保育サポーターバンクの更なる充実と保育サポーターの皆様の御活躍を期待しています。女性医師の皆様におかれましては、子育てに関する多くの不安や悩みもあるうかと思いますが、この相談窓口や保育サポーターを御活用いただき、仕事と子育ての両立を図り、安心して本県の医療の場で御活躍いただければ幸いです。最後に、保育サポーターバンクの今後益々の御発展を祈念するとともに、保育サポーターの皆様をはじめとした関係者の方々へ、深く感謝を申し上げます。



## 令和4年度 保育サポーター研修会 講演抄録



## 乳幼児の発達と関わりについて



山口県乳幼児の育ちと学び支援センター  
幼児教育アドバイザー

林 和子 先生



今から20年後の社会を

考えてみましょう

目の前の乳幼児は、技術革新やグローバル化によりめまぐるしく変わる世界を生きていきます。今、大人に課せられた大きな課題は「新しい時代にふさわしい人材をいかに育てるか?」ではないでしょうか。

ということとは、従来と同じ発想や受け身の姿勢ではなく、自ら判断して目標を定め課題を見つける。様々な人と協力しながら挑み、あきらめずに解決策を導き出す。知識や情報をつ結びつけて、新しい価値を創造する。…そうした資質能力を備えた乳幼児の育ちが求められています。

乳幼児期は人間形成の

基礎となります

子どもは、身体的にも精神的にも未熟な状態で生まれ、大人に保護され養育されながら望ましい成長・発達を続け、人間として必要なことを身に付けていきます。そのためには、子ども一人一人に応答的な関わりが大切です。大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることによ



て周囲に関心を持ち、自分の意志で何かをするようになり、自我が芽生え、言葉や思考力・自己統制力も発達させていきます。

「自分はいつでも受け入れてもらえる存在だ」「自分は存在価値のある存在だ」という自己肯定感が育つと、「もっと頑張ってみよう」という前向きな情動や向上心が生まれ、非認知的能力が育まれていきます。この能力は、どの年代でも伸ばすことが可能ですが、脳の柔らかい乳幼児の方が、ずっと伸び率がいいことも分かっています。

改めて、『子どもを慈しみ愛しましょう』『子どもの気持ちをしつかりと受け止め、応答的に関わりましょう』を大切にしていきたい。ここでは、3歳未満児の発達と関わりについて考えていきましょう。

【乳児期】

発達の特徴と関わりについて

赤ちゃんの表情が豊かで笑顔が多いのは、心が豊かに育っている証拠です。生後4ヶ月頃までに首が座り、徐々に腕、手首、足は自分の意志で動かせるようになり、寝返り、腹ばいにより全身の動きを楽しむようになります。生後6ヶ月を過ぎると、身近な人が分かり、あやしてもらうと声をたてて笑うようになります。生後7〜8ヶ月頃から一人で座れるようになります。また、人見知りが始まり親しい人と他の人との区別がつくようになります。生後9ヶ月頃、身近な大人との強い信頼関係を基盤として探索活動が活発になってきます。1歳前後には、つかまり立ち、伝い歩きができるようになり、外への関心も高まります。また喃語も会話らしい抑揚がつくようになります。



関わりについては、スキンシップや声かけを大切にあげましょう。そうすれば自分と人への信

頼感を育みます。気をつけたいのは、「ハイハイして」「歩いて」と急がして発達の飛び越しをすると、転んだ時にとっさに手が出ず顔のケガをしやすいくなります。子どもが自ら育とうとする力を信じましょう。

そして、目と目を合わせることで、顔を見合わせて笑い合うことを心がけましょう。

【1歳頃～2歳未満児】  
発達の特徴と関わりについて

歩き始め、手指操作ができるようになります。大人の言うことが分るようになり、呼びかけたり、拒否を表す片言を盛んに使ったりします。言葉で伝えられないことは指さし、身振りで示そうとします。2語文も話し始めます。大人の援助の下で何かに見立てたり、つもり遊びが豊かになります。



関わりについては、温かい人間関係が最も大切です。また、子ども自身の発見や驚きに共感し、受けとめることが大切です。子どもは成長と停滞を繰り返しながら育っていくことを理解し、長い目で見守っていきましょう。子どもに愛情豊かなまなざしをかけ、向かい合って子どもの成長を実感していきましょう。まだまだ大人の世話を必要とする自立への過程と理解しましょう。

【2歳頃～3歳未満児】  
発達の特徴と関わりについて

歩行機能が定着し、走る・跳ぶなどの基本的運動機能が一段と進みます。つまむ・回すなどの手指の動きが巧みになります。発声はより明確になり、語彙も増加していきます。自分のしたいこと、してほしいことを言葉で表出できるようになります。また、他の子どもとの関わりを求めるようになり、時にはかんしゃくを起したり、自己主張をするようになります。これは、自我が順調に育っている証拠です。

関わりについては、子どもが「イヤだ」「自分で」と言い、ひっくり

返る、大泣き  
…となること  
が多々ありま  
すが、「自我  
が育った」「大  
きくなった  
ね」「賢くなっ  
たね」と、ゆっ  
たりと構えて向き合みましょう。子  
どもの気持ちを受容し、安定した関  
係を作ることが求められます。友達  
とのぶつかり合いや衝動的な行動を  
した場合は、先ず双方の気持ちを代  
弁しましょう。「良い、悪い」のジャッ  
ジに先走らないことです。



小中高生の自殺が過去最高となっ  
ています。この時期にこそ、大人か  
ら愛されることを実感し、子ども自  
身が「自分は自分でいいんだ、満足  
している」という自己肯定感を育む  
ことがとても重要です。



予告!!

令和5年度 研修会日程

サポーターの皆様へは改めてご案内を差し上げますが、下記のとおり開催予定です。万事練り合わせてご出席くださるようご予定ください。

日時：令和6年3月3日(日)  
10時から13時

場所：山口県医師会会議室  
(山口市吉敷 山口県総合保健会館内)

講演：「子どもの目の発達と病気」  
なかの眼科クリニック  
中野 朋子 先生

その他：保育サポーターバンクの説明  
昼食懇談会





利用者の声 (令和5年9月)

利用者の方にインタビュー



今回は宇部市でサポートを受けられているご家族にお話を伺ってきました。

——医師会保育サポーターバンクを知ったきっかけは？

**利用者** 宇部市の保健師さんの紹介で医師会保育サポーターバンクを知りました。

——今はどんな依頼内容で利用中ですか？

**利用者** 子供の免疫力が普通の0才児の1/4以下の為、他の児との接触があり感染症のリスクがある一時預かり等のサービスが利用できず自宅で保育していました。元々夫の育児復帰後に保育サポーターバンクを利用しようと思っていました。サポーターさんから早めに慣れるように好意の声かけにより、夫の育児中から週2〜3回、1〜2時間/回、自宅に来てもらい保育をサポートしてもらいました。

助かりました。また、色々子育ての関わり方など教えていただき、とても有難かったです。

——保育サポートを利用して嬉しかったり困ったことはありませんか？

**利用者** 両親・義両親とも近くにいない為、自分自身が子育て支援を受けて嬉しいです。また、子供はおばあちゃんと接するよつな触れ合いが出来て良かったです。

一方、サポーターさんが仕事や沢山活動をされているので週によっては支援の日にならバツキがあつて少し困りました。その結果、サポーターさんが多忙な為に夫の育児復帰1か月後にサポート終了となりました。

日本において、山口県は子育て支援がかなり遅れて遅れている中、医師会の保育サポーターバンクがあつて凄く助かりました。元々子育ては両親、つまり父母一緒に子育てをするので医師会のサポーターバンクは医師の男女問わず支援があり良かったです。

一方、サポーターさんから添い寝など薦められちよつと驚くこともあり、安全面への知識を少しアップデートして頂ければ幸いです。

保育相談員より一言

保育相談員連絡先  
090-9502-3715



サポーターさんへ

- サポーター登録をして研修会にも参加しているのに活躍の場がないサポーターさん、本当に申し訳ありません。善意溢れるお言葉をいただくのですが、サポート依頼の地域にバツキがある為にお声がけできずすみません。それでも、皆さんがサポーター登録してくださっていることが医師の安心感に繋がっています。本当に有難うございます。今後ともよろしくお願ひいたします。
- 約5年にわたりサポートしていたご家族から、「長い間お世話になりました」と親子で挨拶に見えサポート終了となったとサポーターさんからの報告がありました。サポーターさんのご自宅で保育が多く、毎回食事や遊びの工夫など盛りだくさんでしたね。互いの信頼関係の元で温かいご支援を本当にありがとうございました。



医師のみなさんへ

- サポートの急なキャンセルはご遠慮ください。サポーターさんはスケジュール調整しサポート準備をしています。**当日や直前のサポートキャンセルは極力しないよう心掛けましょう。**
- サポート依頼を終了する際には、サポーターさんにはもちろん、相談員にも**必ず**終了の連絡をお願いします。(保険の更新の関係で把握が必要です) サポート依頼を一旦終了後、久しぶりにサポート依頼をされる際にはサポーター保険が終了している可能性もありますので相談員にメール・電話等でご連絡をお願いします。
- サポーターさんへのお手当の精算は数か月分をためずに**月に1回は支払うようにしましょう。**

外国に10年以上住む経験のある奥様には日本の育児との違いに違和感を覚える場面もあつたようです。年一旦サポートは終了しましたが、年

末市外に転居後は再度医師会のサポーターバンクを利用される予定です。今後ともよろしくお願ひいたします。

### サポーターさんの声

(令和5年9月)

#### 匿名希望

私が保育サポーターバンクに登録したのは6年前で友人の勧めでした。長年勤めた営業の仕事を手術を経験したことで退職したタイミングで登録後すぐに塾への送迎のお話があり現在も小学6年生の女の子と安全運転に気を付けて会話を楽しみながら6年間続けています。



そんな中、もう一つ二両親共にトクターで3人の男の子を持つ女医さんの家事サポートの話がありました。私の家族はそれは大変と言いつつも料理好きなお母さんには適任だと応援してくれています。まだ始めて間もないので模索中ですが、家事の事でアドバイスをすると直ぐに取り入れて下さる事、料理を褒めてくださる事など、とてもやり甲斐があります。

人の命に関わる大切な仕事をされているトクターさんの少しでも役に立っている事が、私の人生の糧にもなり有難く、自分の両親の介護、去

年生まれた初孫の世話と毎日忙しく元気に過ごさせて頂いています。

サポートの開始時は保育と家事のサポートでしたが、お子様が成長されたことで家事支援の割合が大きくなった事例ですが、前任のサポーター引退に伴い後任を快く引き受けてくださって有難うございます。

#### サポーターさんにインタビュー



今回は下関で活動中のサポーター梶間やよひさんにお話を伺ってきました。

——医師会サポーターに登録されたきっかけは？

**梶間さん** 障害のある子ども達へのサポート施設に勤めていたので、医師との接点も多く心身共に大変なお仕事だと痛感していました。知人の紹介で存在を知り登録させていただきました。

——今はどんな保育サポートをされていますか？

**梶間さん** 総合病院にお勤めの先生のお子様二人のサポートをさせて頂

いています。お二人が保育園の時から現在小学6年生と3年生なので成長に合わせてサポート内容は変わってきます。現在は主に空手やソフトボール会場への送迎、家事等をサポートしています。

——保育サポートで心掛けていることがあれば教えてください。

**梶間さん** お二人の成長を見つけ、その時にしっかりとメールを送るようになっています。いつでも、どのようにも動けることをご家族に伝え安心していただき、日常的には車の運転に気を付けたり、自分の体力アップに気を付けています。

——サポーター活動で嬉しかったり、困ったりはありますか？

**梶間さん** 嬉しかった事では、幼い時には車の中で「しりとり」をしたり歌を歌い、運動会等行事も観に行かせて頂き、公園で遊んだり、いちご狩り・リンゴ狩りに一緒にしたことです。家では色々な製作をする手伝い、迷路書きをしたこと。

小学生になると、キャッチボールやゲームを一緒にしたこと。テントお泊り・家での誕生会、豆まき、クリスマス会等行事に参加させていただいたこと。色々な事を一緒にでき

て、計画したり実行して楽しんだり皆で笑えることが多いです。

困ったことは全然ありません。お二人の成長とご家族の皆様の笑顔に私も沢山支えられています。

——昨年度末に長年勤務された保育士を退職されたそうですね。現在は地域のボランティア等でお忙しいようですが、今後の過ごし方ややりたい事など予定はありますか？

**梶間さん** 3月末に保育士の仕事を完全に退きました。色々やりたいことはあるのですが、この1年間は私(保育士としての)を支えてくださった方へ感謝し、時間がとれなくて出来なかった事をさせて頂くのと地域の活動でボランティアするようになっています。

いつの日か萩往還や四国のお遍路、バス旅行等色々楽しみたいと思います。勿論お二人の成長をこれからも時間が多く取れるので楽しませて頂ければ幸いです。

いつもサポーターバンク運営を支えてくださってありがとうございます。色々なことに挑戦し活動的に過ごされている梶間さんの益々の活躍を祈念しインタビューを終了します。

知っていると役立つ  
医学まめ知識



## 新型コロナウイルス感染症による 子どもたちへの影響について

かわむら小児科 河村 一郎



2020年1月日本で初めて新型コロナウイルス感染症の人が発見され、その後徐々に増加しマスク生活が始まりました。2023年5月8日に感染症分類の2類相当から5類に引き下げられることとなり、マスク生活も必須とはなくなりましたが、この間、3密を防ぐ、ほとんどすべての人がマスクを付けた生活となり、黙食、できるだけ会話をしないようにというような事態が続きました。こういった生活による子どもたちへの影響は詳細にはまだ調べられていませんが、小児科医である私が感じていることを述べてみます。

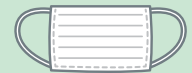
一つは、コミュニケーション力の低下です。やはりマスクで表情、口の動きが見えないことから他の人がどういったことを言おうとしているのか、その意図がくみ取れない、さらには聞き取りづらい、といったことからトラブルになりやすい、元々コミュニケーションが苦手な子が増えているのかもしれませんが、保育所、幼稚園などでトラブルになる子が増えているような気がします。言葉の遅れをきたす子も増えているということも言われており、それも口の動き、音声が届かなくなるといえるかもしれません。

二つ目は、咬む力の低下です。子どもは大人の咬

む姿を見て咬むことを学びます。ある保育園では食べ物をかまずに丸呑みする子どもが出てきたため保育士さんが一時的にマスクを外し、もぐもぐと「咬む」お手本を見せたところ子どもたちは口元の動きをまねて上手に食べられるようになったという事例もあります。

三つ目は、視力、運動能力の低下です。コロナ禍にあり、外出を控えて自宅での生活を余儀なくされました。そのため、自宅での時間が増えるとしてもゲームやスマホなどメディア依存の生活になってしまいがちになります。そうすると視力の低下さらには外遊びの減少などから運動能力も低下してきています。メディア依存は前頭前野の成長にも関与することが言われており、前頭前野は感情のコントロールを司るところなのでコミュニケーションの低下にもつながっているのもしれません。睡眠不足になることも言われています。かんしゃく、イライラ、暴力を起こす子も増えており、うつ症状をきたす子もいます。

これから元の生活に徐々に戻っていくかと思いますが、子どもたちの健やかな成長のため、マスクを外して顔を見せた保育、会話が



### 医師のみなさんへ

両立支援のための「保育サポーターバンク」をご活用ください。保育相談員が要望をお聞きしてコーディネートします。まずはお電話かメールでご連絡ください。医師会加入の有無は問いません。

【問い合わせ先】

TEL : 090-9502-3715 (保育相談員直通)

E-mail : hoiku@yamaguchi.med.or.jp



### 山口県医師会は育児中の医師を応援します!

帯状疱疹の予防接種の2回目を受けた。筋肉注射なのでインフルエンザ予防接種並みに痛い。3か月ほど前に1回目の接種を受けた際の痛みと副反応の記憶も新しい。今回も「痛ー!!」と先生に言いたかったが我慢した。なぜなら小児科で接種を受けたので診察室のカートの向こうにはちびっ子達がいる待合室がある。接種をした数時間後に副反応の腕の腫れ・痛みが始まったので接種した部位を見るとパンダのイラスト入りの絆創膏が貼ってあったので思わず笑った。そういえば、前回の接種時はウサギ柄の絆創膏だった。さすが小児科さん。大人でも動物イラストの絆創膏に癒されるのだから、ちびっ子達もこの絆創膏を見て注射の痛みと折り合いをつけるんだね。小さな絆創膏だけでも効果絶大。

(保育相談員 石飛)



## DATA

保育サポーター登録者数

令和5年9月1日現在 ( ) 内は活動中

地域別	人
下関市	10 (1)
宇部市	26 (10)
山口市	12 (3)
萩市	2 (0)
防府市	5 (0)
下松市	4 (2)
岩国市	0
大島郡	0
光市	1 (0)
長門市	2 (0)
柳井市	4 (0)
美祢市	0
周南市	11 (1)
山陽小野田市	6 (1)
熊毛郡	0
合計	83 (18)



### 編集後記

